



# 創立150周年を記念して

猪苗代町立猪苗代小学校長 吉野 徹

本校は、明治6（1873）年3月15日、本町小学校として開校。翌明治7年に猪苗代小学校と校名を変更して以来、創立150周年という大変意義のある年を迎えました。これまで、明治・大正・昭和・平成、そして令和と、5つの元号にわたり、児童・教職員・保護者・地域住民の皆様が一体となって、すばらしい伝統と校風の樹立に努力されて参りました。この間、本校を巣立った卒業生は11,699名に及び、ふるさと猪苗代はもちろんのこと、全国・全世界においてめざましい活躍をされており、本校はまさに猪苗代町の中心校としての役割を担ってきました。

また今年、世界の医聖 野口英世博士が本校を卒業して130年目の年にあたります。博士の遺訓である「目的・正直・忍耐」は、今でも『猪苗代の子ども、わたしたちの誓い』（平成21年4月1日制定）に引き継がれ、猪苗代町の子どもたちを導いています。そして博士が大正4年に一時帰国された折に揮毫された「忍耐」の文字が、中央階段に掲額され、いつも本校の子どもたちを見守っています。

そして社会状況の変化に伴い、令和6年4月には、吾妻小学校・長瀬小学校との三校統合が行われ、新たな猪苗代小学校の歴史が始まり、さらなる発展が期待されます。

この度、本校の後援会や区長会の皆様、PTAの皆様を中心として、歴史と伝統に輝く猪苗代小学校の創立150周年と野口英世博士卒業130周年を祝し、「猪苗代小学校創立150周年記念事業実行委員会」が結成され、記念事業を計画していただきました。記念事業として、記念誌の発行と記念品の配布、記念式典等の開催、そして鼓笛楽器等の整備が行われました。今回の記念事業ができたのは、地域の皆様、区長会の皆様、卒業生の皆様、PTAの皆様、そして猪苗代町と猪苗代町教育委員会の皆様の温かい御理解と御協力、御支援の賜物です。心より感謝申し上げます。

東日本大震災では、地域の絆やふるさとを大切にする気持ち、地域社会の重要性が再認識されました。また新型コロナウイルス感染症によるパンデミックでは、人々の自由な交流やつながりの重要性が再確認されました。このことから、これからの教育の成否は、まさに「教育は人なり」と言われるように、子どもを主人公として、学校・家庭・地域の多様な人々が力を合わせ、互いに協力し合いながら、社会全体で地域の宝である子どもたちを育むことにかかっています。これまで培ってきた150年の歴史と伝統を糧としながら、ふるさと猪苗代を愛し、持続可能な未来を創るたくましい子どもたちを私たちみんなの力で育てていきましょう。

結びに、この記念誌発行のために玉稿や資料をお寄せいただいた方々に厚く感謝申し上げますとともに、記念誌の編集や校正等に携われた大勢の皆様の御苦勞に対し、心より敬意と感謝を申し上げます。あいさついたします。ありがとうございました。